

## 9月8日の米国株式市場の下落について

### 急上昇銘柄の自律調整に欧州懸念が重なる

2020年9月9日

### 大型IT株やEV株が自律調整する中、欧州不安が再燃

9月8日（現地、以下同様）の米国株式市場は、NYダウ、S&P500、ナスダック総合の主要3指数がそれぞれ2.25%、2.78%、4.11%下落しました。

9月初までの上昇相場のけん引役だったアップル、マイクロソフト、アマゾンといった大型IT株や、EV（電気自動車）のテスラなどの自律調整が深まり、市場全体を押し下げました。特にテスラは、期待されていたS&P500指数への採用が見送られたことも、株価下落を加速させる要因となったようです。

加えて欧州で不安要因が浮上したことも、株価下落要因となりました。イギリスは、来年初からのEU（欧州連合）完全離脱に向けてEUとの間で通商協定を結ぶ予定ですが、交渉が難航しており、合意なき離脱が改めて意識され始めています。また、フランスやスペインでは、新型コロナウイルスの日々の新規感染者数が4月を上回る状況となり、経済活動が再び抑制されるのではないかと懸念が広がっています。

ナスダック総合指数は、直近高値からの下落率が10%に達しましたが、3月の安値から直近高値まで約75%上昇しており、株安は急上昇の反動という面が強いと思われます。今後も短期的にはスピード調整が続く可能性はありますが、金融政策・財政政策が全力で景気回復をサポートしている状況を勘案すると、米国株が中長期的な下落トレンドに転じるリスクは低いと想定されます。

#### 米国株価指数の推移



(出所) ブルームバーグ

#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。